



埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

—令和2年度—

令和
二年
度

二一
〇二
一

2021

千葉市教育委員会

千葉市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、令和2年度埋蔵文化財調査（市内遺跡）の報告書である。
- 2 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物散布地・貝塚・集落跡・古墳・塚・城館跡等を包括したものである。
- 3 発掘調査は、千葉市教育委員会が主体となり国庫補助金と市費により実施した。報告書は市費により刊行した。
- 4 事業主体及び調査組織は次のとおりである。

教育委員会事務局

教育長 磯野 和美

教育次長 大野 和広

生涯学習部

部長 佐々木 敏春

文化財課

課長 佐久間 仁央

課長補佐 児玉 隆一

特別史跡推進班

主査 森本 剛

主任主事 須賀 真弓

主事 青姫 早季

文化財保護班

主査 西田 聰

主任主事 佐藤 洋

主任主事 森山 夏希

主事 千葉 南菜子

埋蔵文化財調査センター

所長 西野 雅人

主査 白根 義久

主任主事 山下 亮介

主任主事 松田 光太郎

主事 井出 祥子

会計年度任用職員 難波 美由紀

会計年度任用職員 戸村 正己

会計年度任用職員 菅谷 通保

会計年度任用職員 石渡 麻希

会計年度任用職員 岸本 高充

- 5 本書は、出土遺物の整理で西野雅人・岸本高充の協力を得て、井出祥子が執筆・編集を行った。
- 6 出土遺物及び記録類等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

例言

目次

はじめに	1
1 観音塚遺跡	5
2 根崎遺跡	6
3 生実城跡	7
4 御林遺跡	8
5 谷原前遺跡	9
6・7 種ヶ谷津遺跡	12
8 居寒台遺跡	14
9 番後台遺跡・生実城跡	15

写真図版

報告書抄録

挿図・表目次

第1図 発掘調査遺跡位置図	4	第14図 谷原前遺跡遺構配置図	9
第2図 観音塚遺跡地形図	5	第15図 谷原前遺跡出土遺物（1）	10
第3図 観音塚遺跡遺構配置図	5	第16図 谷原前遺跡出土遺物（2）	11
第4図 根崎遺跡地形図	6	第17図 種ヶ谷津遺跡地形図	12
第5図 根崎遺跡遺構配置図	6	第18図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図	13
第6図 根崎遺跡出土遺物	6	第19図 種ヶ谷津遺跡出土遺物	13
第7図 生実城跡地形図	7	第20図 居寒台遺跡地形図	14
第8図 生実城跡遺構配置図	7	第21図 居寒台遺跡遺構配置図	14
第9図 生実城跡出土遺物	7	第22図 居寒台遺跡出土遺物	14
第10図 御林遺跡地形図	8	第23図 番後台遺跡・生実城跡地形図	15
第11図 御林遺跡遺構配置図	8	第24図 番後台遺跡・生実城跡遺構配置図	15
第12図 御林遺跡出土遺物	8	第25図 番後台遺跡・生実城跡出土遺物	15
第13図 谷原前遺跡地形図	9	第1表 出土遺物一覧	16

写真図版目次

写真図版1 1～4 観音塚遺跡	写真図版4 1～2 種ヶ谷津遺跡（令和2年度）
5～8 根崎遺跡	3～6 居寒台遺跡
写真図版2 1～3 生実城跡	7～8 番後台遺跡・生実城跡
4～6 御林遺跡	写真図版5 1～2 番後台遺跡・生実城跡
7～8 谷原前遺跡	3 谷原前遺跡 出土遺物(21)
写真図版3 1～2 谷原前遺跡	4 種ヶ谷津遺跡 出土遺物(40)
3～6 種ヶ谷津遺跡（令和元年度）	
7～8 種ヶ谷津遺跡（令和2年度）	

はじめに

千葉市では、市内の開発事業に先立ち、遺跡の内容や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施している。本書は、その成果をまとめたものであり、今回は令和元年度の6地点と令和2年度の3地点、合計9地点8遺跡の発掘調査の成果を報告する。対象遺跡の概要は以下の通りである。

1 観音塚遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市中央区千葉寺町709番1の一部

調査の原因 宅地造成

原因者 株式会社フレスコ

調査担当者 山下亮介・井出祥子

調査期間 令和元年10月21日～11月1日

調査面積 1,354.91 m²のうち153.5 m²

2 根崎遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市若葉区原町922番3

調査の原因 集合住宅・個人住宅

原因者 個人

調査担当者 山下亮介・井出祥子

調査期間 令和元年11月8日～11月15日

調査面積 1,066.69 m²のうち105 m²

3 生実城跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市中央区生実町1548番1、同番2の各一部

調査の原因 物販店舗建設

原因者 大和ハウス工業株式会社 千葉中央支社

調査担当者 山下亮介

調査期間 令和元年11月25日～11月29日

調査面積 400 m²のうち45 m²

4 御林遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市花見川区畑町1432番2、同番3

調査の原因 個人住宅

原因者 有限会社栄不動産

調査担当者 井出祥子

調査期間 令和元年12月3日～12月6日

調査面積 475 m²のうち 55 m²

5 谷原前遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市若葉区高根町 940 番、941 番

調査の原因 太陽光発電施設設置

原因者 株式会社スタックス

調査担当者 山下亮介

調査期間 令和2年2月7日～2月25日

調査面積 1,814 m²のうち 174.5 m²

6 種ヶ谷津遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市中央区生実町 2548 番 11 の一部、2689 番 1

調査の原因 第二グラウンド用地整備

原因者 学校法人千葉明徳学園

調査担当者 井出祥子

調査期間 令和2年2月27日～3月25日

調査面積 4,239 m²のうち 532 m²

7 種ヶ谷津遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市中央区生実町 2579 番 1、2580 番 1 の各一部

調査の原因 第二グラウンド用地整備

原因者 学校法人千葉明徳学園

調査担当者 井出祥子

調査期間 令和2年6月8日～7月7日

調査面積 3,539 m²のうち 356 m²

8 居寒台遺跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市花見川区浪花町 977 番 22

調査の原因 宅地造成

原因者 株式会社ライフ

調査担当者 山下亮介

調査期間 令和2年7月27日～8月3日

調査面積 242 m²のうち 26 m²

9 番后台遺跡・生実城跡

調査の種類 確認調査

調査地 千葉市中央区生実町 1539 番 1、同番 2

調査の原因 集合住宅

原因者 個人

調査担当者 井出祥子

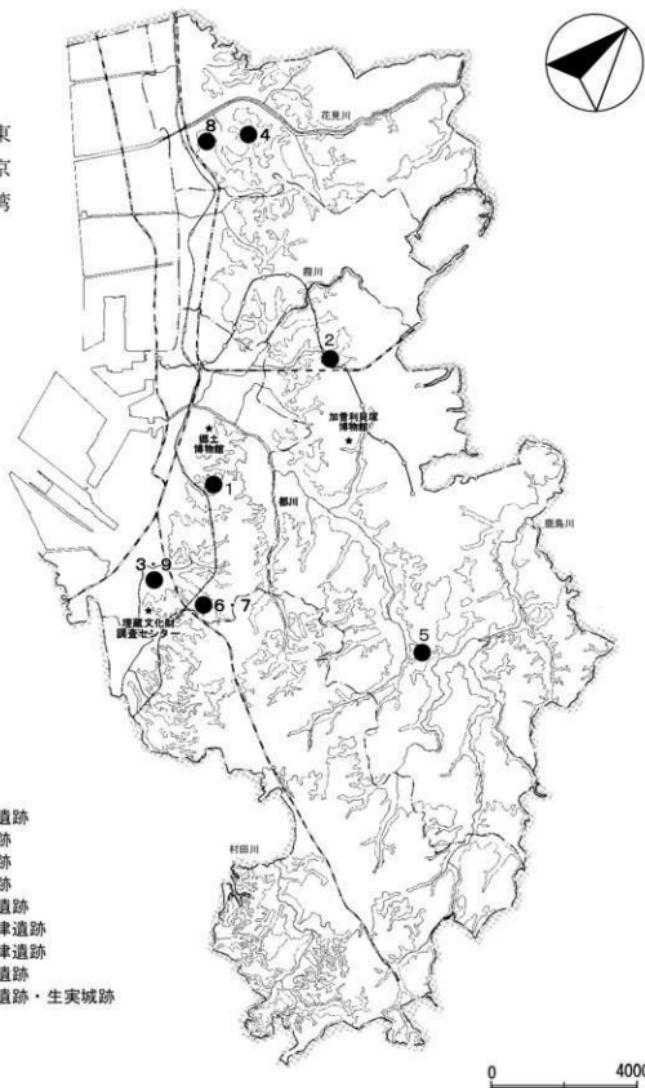
調査期間 令和 2 年 8 月 3 日～8 月 11 日

調査面積 523.53 m² のうち 55 m²

※ 1・7 は国庫補助事業対象の確認調査。

それ以外は、市単費事業による確認調査。

- 1 観音塚遺跡
 2 根崎遺跡
 3 生実城跡
 4 御林遺跡
 5 谷原前遺跡
 6 種ヶ谷津遺跡
 7 種ヶ谷津遺跡
 8 居寒台遺跡
 9 番後台遺跡・生実城跡

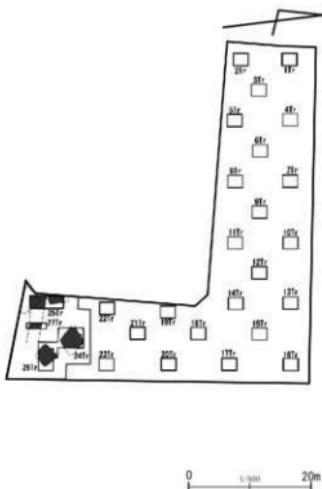


第1図 発掘調査遺跡位置図

1 観音塚遺跡（第2・3図、図版1-1～4）

遺跡の概要 都川沖積地の南側、海岸から近い小さな谷に挟まれた台地上に立地し、標高22m前後を測る一画に所在している。遺跡の西側の台地続には、鷺谷津遺跡・中野台遺跡、鷺谷津遺跡の北側に地蔵山遺跡が所在する遺跡密集地である。この一帯は、都市基盤整備公団が行う土地区画整理事業に伴って、財団法人千葉県文化財センターが千葉寺地区の遺跡群として発掘調査を実施している。このうち観音塚遺跡については、遺跡南北を対象として、昭和60年度から平成10年度にかけて断続的に発掘調査が実施され、旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代の遺構・遺物を検出した。特に古墳時代から平安時代にかけては、堅穴住居跡213軒、掘立柱建物跡22棟、井戸跡1基、土坑などの遺構と土師器・須恵器の他に、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鍛冶関連遺物、青銅製品、金銅製品などの特殊な遺物も出土していることから、この地域の拠点的集落であることが明らかとなった。

調査の結果 遺跡の北西部、区画整理事業地の北側中央に隣接する1,354.91m²の地区を対象に、27箇所のトレンチを設定した。調査区南端に遺構が集中しており、4箇所のトレンチで奈良・平安時代の堅穴住居跡4軒と溝状遺構1条を検出した。地表下約0.3mで遺構検出面となる。遺構の見られなかつた調査区西部は地表からローム層上面まで約0.5～0.6mあり、耕作土層、暗褐色土層、ソフトローム層の層序が見られる。遺構を検出した25～27トレンチで土師器・須恵器の小片15点が出土している。本調査の必要な範囲162m²のうち、影響範囲のみ千葉市教育振興財団が本調査を実施し、残りについては保存措置を講じた。25トレンチ出土の土師器2点、須恵器1点を刊行済みの本調査報告書に掲載した。



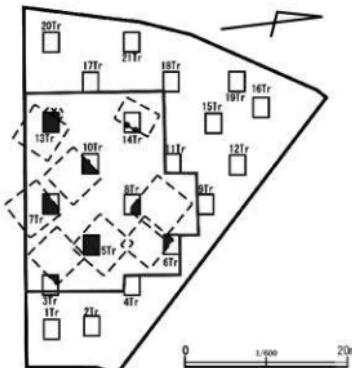
2 根崎遺跡（第4～6図、図版1～5～8）

遺跡の概要 都川に河口付近で合流する葭川支流の標高約30mを測る台地上に立地している。本遺跡を含む遺跡群は原町遺跡群と呼ばれ、周辺にも多くの遺跡が存在し、根崎遺跡においては開発に伴い昭和58年度から断続的に発掘調査が実施されている。過去の調査成果として、根崎遺跡での土地利用の痕跡は縄文時代早期前葉からみられるが、最も活発化するのは古墳時代終末期以降であり、奈良・平安時代にかけての大規模な集落跡の存在が明らかになっている。

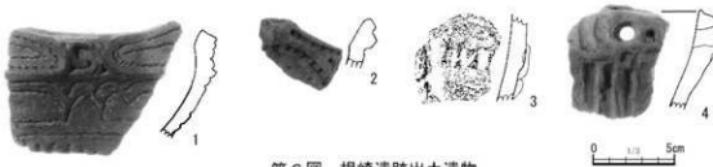
調査の成果 遺跡の北部、1,066.69m²を対象として21箇所のトレンチを設定した。調査の結果、奈良・平安時代の堅穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土坑2基を検出した。遺構は地表下約0.3～0.4mで検出される。出土遺物は縄文土器67点、土師器・須恵器63点、軽石・礫3点である。縄文土器は中期前半・阿玉台式が主体を占めており、4点を掲載した（第6図）。1は阿玉台Ia式、2もIa～Ibであろう。4は加曾利E I式並行の土器である。阿玉台式は調査対象範囲内のトレンチから広範囲にわたり出土している。13トレンチでは、古墳時代後期と考えられる土師器がやまとまつて出土し、遺構の年代を示すと考えられる。本調査が必要な範囲449m²のうち影響範囲のみ本調査を実施し、残りについては保存措置を講じた。個人住宅部分については市直営で実施し、令和3年度の市内遺跡報告書で報告予定。集合住宅部分は千葉市教育振興財団が実施しており、令和3年3月に報告書刊行予定である。



第4図 根崎遺跡地形図



第5図 根崎遺跡遺構配置図



第6図 根崎遺跡出土遺物

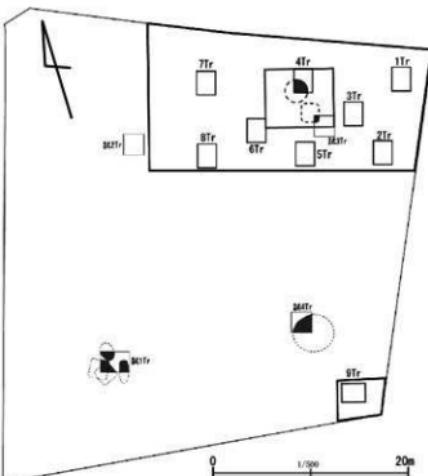
3 生実城跡（第7～9図、図版2-1～3）

遺跡の概要 西の東京湾側から東に入り込む谷津に挟まれ西に張り出した標高約17～21mの台地先端部に位置している。都市計画道路の建設事業に伴い昭和63年から平成9年にかけて断続的に発掘調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての遺構が多数検出されている。特に中世の城郭と近世の森川氏の陣屋跡について多くの成果が得られ、その構造や年代が明らかになった。なお、城域は約32万m²におよぶ大規模なものだが、中心部は昭和40年代の団地造成によって破壊されており、視認できる遺構としては生実神社西側の空堀と大手口付近の土塁が僅かに残っているのみである。

調査の成果 生実神社の東側、400m²を対象として9箇所のトレンチを設定した。なお、試掘調査は事業地全域を対象としているが、協議の結果、遺構を保存できる工法をとることとなつたため影響範囲のみを確認調査の対象とした。全城が後世の造成の影響を受けており、0.4～1m以上の擾乱層が堆積している。4トレンチの地表下約0.8mで中世の地下式坑1基を検出し、本調査が必要な範囲42m²については保存措置を講じることとなつた。検出したのは地下式坑の入口部分とみられ、本体は南側に広がると考えられる。遺構覆土は暗褐色から黒色を呈し、5cm大のロームブロックを含む。遺物は4トレンチと試掘坑4トレンチから縄文土器1点、土師器・須恵器4点、中・近世陶磁器1点が出土した。4トレンチ出土のすり目をもつすり鉢1点を掲載した（第9図）。



第7図 生実城跡地形図



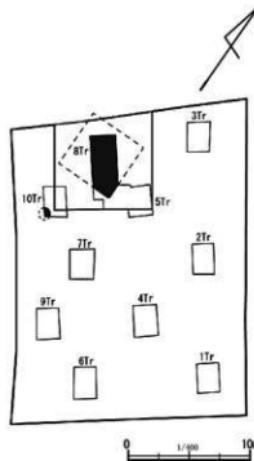
4 御林遺跡（第10～12図、図版2-4～6）

遺跡の概要 市域の西側を流れる花見川の東側、鶴牧支谷の北西側台地上に位置し、標高約22mを測る。御林遺跡の載る台地と南側の台地には縁辺部を中心に多くの遺跡が所在する。周辺遺跡の調査歴としては、本遺跡の南側に所在する上鶴牧遺跡で平成5年度に本調査が実施されており、古墳時代の竪穴住居跡4軒、奈良時代の竪穴住居跡2軒が検出されている。御林遺跡の遺跡範囲を含む周辺一帯は宅地化に伴い試掘調査等を実施しているが、遺構の検出は少なく、本調査を実施したのは平成10年度の1件のみである。平成10年度の本調査では、古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良時代の竪穴住居跡4軒、溝状遺構3条、土坑3基を調査している。

調査の成果 遺跡の北端、475m²を対象として10箇所のトレンチを設定した。8トレンチの地表下約0.5mで奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒を検出し、遺構の端を捉えるため5トレンチまで拡張した。10トレンチでは近世の土坑1基を検出した。本調査対象範囲60m²の取扱いについては現在協議中である。今回の調査で、古墳時代から平安時代にかけての集落の広がりを確認することができた。出土遺物は縄文土器13点、土師器・須恵器5点である。縄文土器は、早期後葉・条痕文系土器1点、中期後半・加曾利E式6点、細別不明6点であり、加曾利E式は6トレンチから6点出土した。6は加曾利E II式期のキャリバーフィニ深鉢である（第12図）。



第10図 御林遺跡地形図



第11図 御林遺跡遺構配置図



第12図 御林遺跡出土遺物

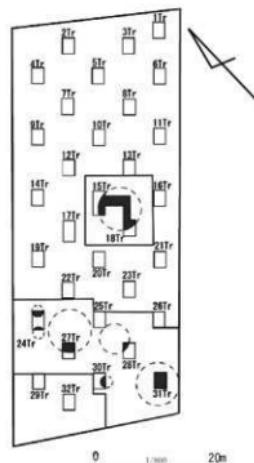
5 谷原前遺跡（第13～16図、図版2-7・8、図版3-1・2、図版5-3）

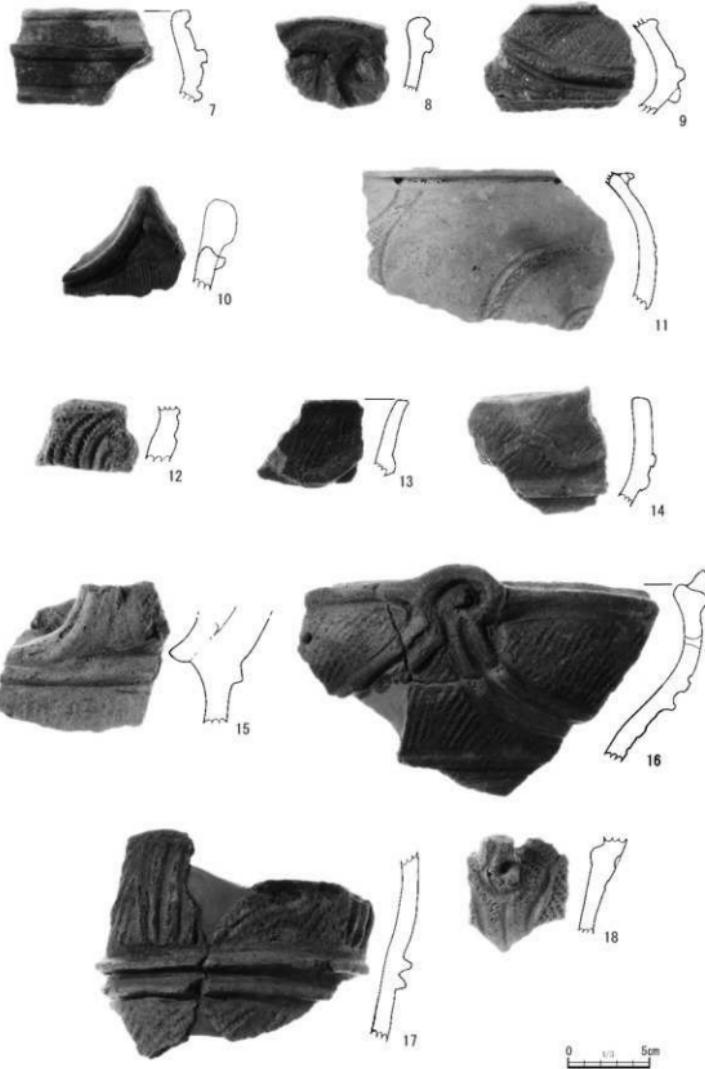
遺跡の概要 都川の右岸、河口から約10km上流の本谷に接した標高約44mを測る台地上に位置する。本遺跡において過去の調査歴は無く、今回が初めての調査である。周辺遺跡の調査歴としては、都川を挟んだ南西約500mに位置する向海道遺跡で平成2年度に確認調査が実施されており、縄文時代の土坑2基と陥穴8基が検出されている。また、北東約800mに位置する皿池東遺跡では平成13年度に本調査が実施され、旧石器時代のブロック2箇所、縄文時代の土坑2基、中・近世溝状遺構3条が調査されている。

調査の成果 遺跡の中心部、1,814m²を対象に32箇所のトレンチを設定した。遺構は調査区中央から南西部に集中し、縄文時代の竪穴住居跡4軒と土坑3基を検出した。本調査が必要な範囲509m²については、保存措置を講じた。調査区北東部はソフトローム層まで約0.3～0.4mと浅く、遺構は見られない。15・18トレンチは遺構確認のために拡張した。調査区南西部に赤味を帯びた土層がみられる。出土遺物の大半は縄文土器であり、1,046点ときわめて多い。有文土器361点のうち1点が前期末～中期初頭であるほかは加曽利E式前半であり、16点を掲載した（第15・16図）。加曽利E式はE I式新段階～E II式古段階がほとんどであり、勝坂・中峠段階が若干混じる。土器以外では石器未成品2点、砥石に転用した磨製石斧1点、磨石類5点、礫4点、土器片錐3点が出土した。竪穴住居跡を検出した15・18・27・28・31トレンチで集中し、30トレンチの土坑も含めて加曽利E式前半期の遺構群と判断できる。南側隣接地の確認調査（令和2年度）で同時期の遺構群を多数検出しており、今回の調査区は集落の北東隅付近とみられる。27トレンチの竪穴住居跡、30トレンチの土坑は破壊されたイボキサゴを主体とする貝層を形成しており、遺構確認の範囲で貝サンプルを採取した。分析結果は別途報告したい。なお、令和2年度調査区の詳細については、令和3年度の市内遺跡報告書に所収予定である。

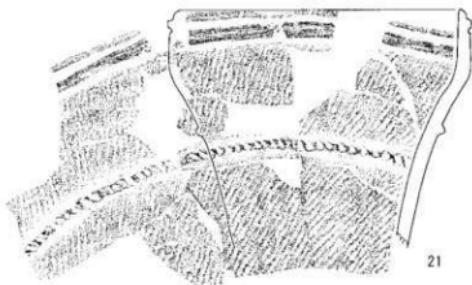
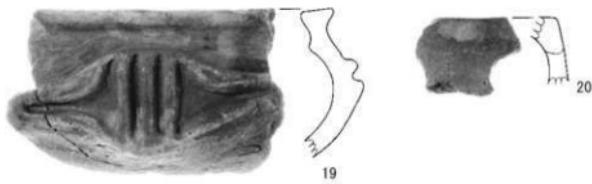


第13図 谷原前遺跡地形図





第15図 谷原前に跡出土遺物（1）



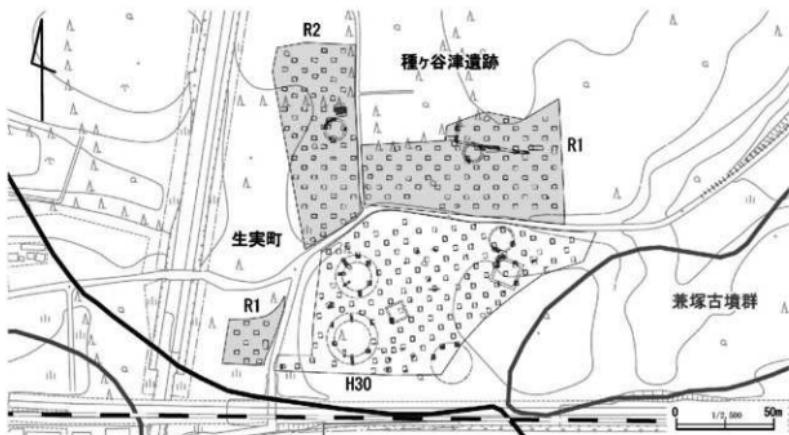
0 (21倍) 5cm 0 (21) 10cm

第16図 谷原前遺跡出土遺物（2）

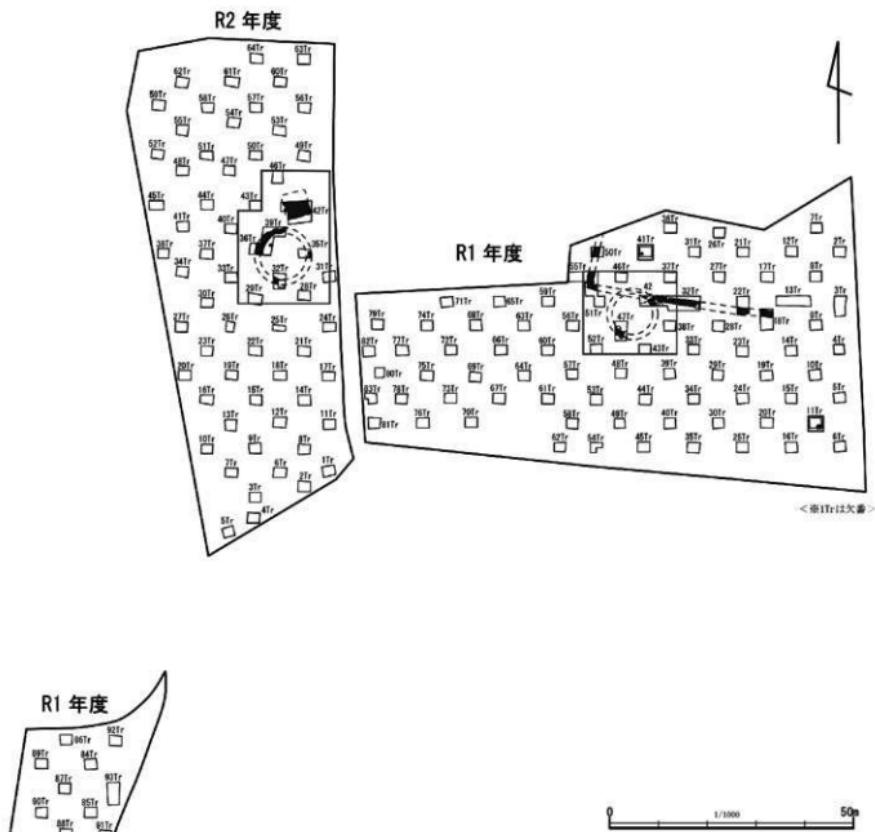
6・7 種ヶ谷津遺跡（第17～19図、図版3-3～8、図版4-1・2、図版5-4）

遺跡の概要 村田川水系の赤井支谷に面した台地上に位置し、標高は約20～23mと南東から赤井支谷側に徐々に高度を減じる。昭和54・平成5・6・10・30年度の計5回の本調査が実施されている。過去の調査成果から、古墳時代中期ないし後期初頭に台地縁辺部を中心に遺構が増え、後期を通じて集落が形成されていたと考えられる。今回の調査区に隣接する場所について平成30年度に確認調査を実施しており、古墳時代後期の円墳4基、終末期の方墳（方形周溝状遺構）2基、土坑34基、溝状遺構1条を検出している。これまでの調査から遺跡の北部にあたる台地縁辺部に堅穴住居跡が集中し集落を形成しているのに対し、遺跡の南部は円墳や方墳の存在が認められることから、集落から離れた墓域として利用された土地と考えられる。

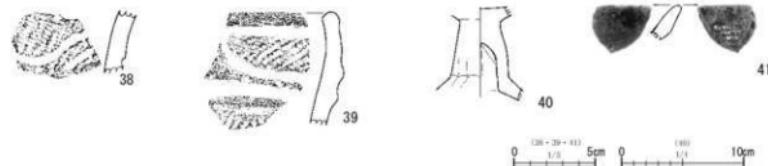
調査の成果 令和元年度調査区と令和2年度調査区を合わせて報告する。令和元年度は遺跡の南部4,239m²を対象として92箇所のトレンチを設定し、令和2年度は隣接する3,539m²を対象として64箇所のトレンチを設定して調査を行った。令和元年度は古墳時代の円墳1基、土坑2基、近世の溝状遺構1条を検出し、令和2年度は古墳時代の堅穴住居跡1軒、円墳1基、土坑1基を検出した。いずれの円墳も墳丘は残っておらず、周溝のみを確認した。地表下約0.2～0.4mで遺構検出面となり、墓域と想定されていた遺跡南部で初めて堅穴住居跡を検出した。出土遺物は、令和元年度調査区では7箇所のトレンチから縄文土器3点、土師器・須恵器6点が出土した。集中はみとめられない。縄文土器の有文は後期前葉・堀之内式である。令和2年度調査区では10箇所のトレンチから縄文土器9点、土師器・須恵器46点、中・近世土器1点が出土した。縄文土器2点と土師器高杯1点、須恵器小片1点を掲載した（第19図）。40の高杯は4世紀末～5世紀初頭、古墳時代中期の特徴を有するものであり、42トレンチで検出した堅穴住居跡の時期を示すものであろう。41の須恵器は器種が不明確だが内面が被熱で発泡しており、坩埚として使用されたと推定される。本調査対象範囲は、令和元年度調査区が347m²、令和2年度調査区が474m²で、平成30年度に確認調査を実施した範囲を含め影響範囲のみを対象として令和3年度に本調査予定である。



第17図 種ヶ谷津遺跡地形図



第18図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図



第19図 種ヶ谷津遺跡出土遺物

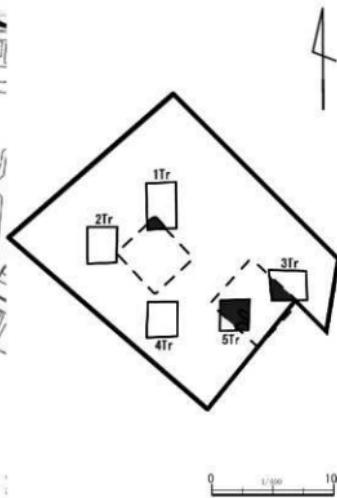
8 居寒台遺跡（第20～22図、図版4-3～6）

遺跡の概要 市域の西側を流れる花見川下流域の左岸、花見川本谷から分岐する鶴牧支谷を東側に臨む標高約17～21mを測る台地上に所在する。本遺跡はこれまで9回にわたり確認調査や本調査が実施されており、古墳時代から平安時代にかけての大規模な集落の存在が明らかになっている。今回の調査区に隣接する場所でも昭和55・平成3・14・15年度に確認調査及び本調査が実施され、古墳時代から平安時代の堅穴住居跡69軒、掘立柱建物跡27棟などを検出した。

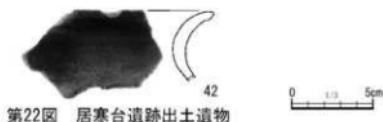
調査の成果 遺跡の北部、242m²を対象として5箇所のトレンチを設定した。調査の結果、3つのトレンチで遺構を確認し、古墳時代から平安時代にかけての堅穴住居跡2軒と土坑2基を検出した。全域に対して本調査が必要と判断したが、造成にあたり保護層を確保できるため本調査は実施していない。約1.3mと厚く堆積している盛土の直下が遺構検出面となる。遺物は、土師器・須恵器が35点出土した。小片のみだが、3・5トレンチにやや残りの良い破片が混じる。奈良・平安時代主体である。42は9世紀中頃、平安時代の甕である（第22図）。



第20図 居寒台遺跡地形図



第21図 居寒台遺跡遺構配置図



第22図 居寒台遺跡出土遺物

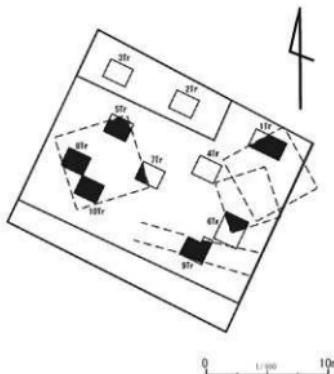
9 番后台遺跡・生実城跡（第23～25図、図版4-7・8、図版5-1・2）

遺跡の概要 生実城跡は西の東京湾側から東に入り込む谷津に挟まれ西に張り出した台地先端部に位置し、番后台遺跡は生実城跡の東側基部付近に位置する。両遺跡は重複して登録されており、番后台遺跡の包蔵地内での調査成果は全て生実城跡として報告されている。生実城跡の過去の調査については本報告書の「3 生実城跡」で記述した通りだが、今回の調査区東側で平成8年度に発掘調査が実施され、縄文時代の炉跡3基、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡9棟、中・近世の堀7条、溝状造構13条、地下式坑4基、竪穴状造構4基、井戸1基、土坑118基の存在が明らかになっている。また、今回の調査区南西側近接地では平成25年度に確認調査を実施しており、奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒、中世の堀1条、土坑7基、掘立柱建物跡などが確認されている。当該地は本調査を実施せず、造構は保存されている。

調査の成果 生実城跡の北東端で番后台遺跡の中央部にあたる場所、523.53 m²を対象として10箇所のトレンチを設定した。7箇所のトレンチで造構を検出し、古墳時代の竪穴住居跡3軒と中・近世の溝状造構1条の存在を確認した。造構検出面は地表下約0.1～0.7mと差があり、調査区の北半分が浅く、南半分が深い傾向にある。本調査が必要な範囲388 m²については、協議の結果、本調査を実施せず保存措置を講じることになった。平成8年度の本調査及び平成25年度の確認調査の成果と合わせると、周辺一帯は古墳時代から平安時代にかけて集落が存在していた可能性が高いと考えられる。遺物は、土師器・須恵器が22点出土した。1トレンチでは壊1点、甕2点の大破片と支脚1点が出土しており、検出した竪穴住居跡は古墳時代後期とみられる。43は土師器壊である（第25図）。



第23図 番后台遺跡・生実城跡地形図



第24図 番后台遺跡・生実城跡造構配置図



第25図 番后台遺跡・生実城跡出土遺物

第1表 出土遺物一覧

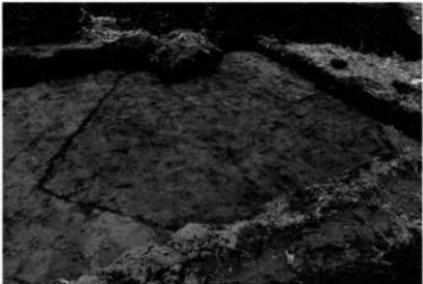
No.	遺跡略称	時代	種別1	種別2	種別3	出土位置	備考
1	02根崎R1	縄文	土器	縄文土器	阿玉台	R1-1T	阿玉台 I a. 波状口縁。隆蒂+角押文による幅狭精円区面文。結節沈線と蛇行沈線による意匠文。ビダ状文
2	02根崎R1	縄文	土器	縄文土器	阿玉台	R1-7T	阿玉台 I a~b. 波状口縁。隆蒂+角押文
3	02根崎R1	縄文	土器	縄文土器	阿玉台	R1-17T	垂下隆蒂(下部剥離)。ビダ状文
4	02根崎R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-4T	加曾利E I 並行。隆蒂継区画、RL
5	03生寒城跡	中・近世	陶磁器	すり鉢		R1-4T	すり目
6	04御林	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-6T	E II キヤリバー形。沈線間磨消。RL
7	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-27T	E I キヤリバー形。隆蒂+沈線区面・意匠文。RL
8	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-27Tワフ	E I キヤリバー形。背割隆蒂+沈線区面・意匠文。RL
9	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-27Tワフ	E I キヤリバー形。背割隆蒂+沈線区面・意匠文。RL
10	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-27T	E I 並行。波状口縁。貼付け隆蒂一部背割状、集合沈線充填
11	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-27T	有孔鋸付壺。沈線意匠文内にRL充填。彩色の痕跡廻し
12	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T	加曾利I 並行か。太く深い沈線内に連続刺突
13	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T往	中峰凹陷。貼付け隆蒂上にRL
14	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T往	E I キヤリバー形。RL施文後蛇行隆蒂貼付け。口縫突起あり
15	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T	E I. 大型把手付。隆蒂区画。RL
16	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T	E I キヤリバー形。隆蒂2本による区画文。RL
17	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T	E I 並行。隆蒂2本による区画、4本組の縦沈線。RL
18	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31Tワフ	大木系か。口縫に横状把手、渦巻文。沈線意匠文+扇磨消。複節RL。
19	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T	E I 並行の有文鉢。口唇上～文様帶赤彩。胎土にシャモット多量
20	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T往	壺台形土器。側面に孔。上面使用による劣化か
21	05谷原前R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-31T	E I 並行。口縫背割隆蒂、頸部刻み隆蒂区画。意匠文なし。RL前段多条
22	05谷原前R1	縄文	石器	加工剥片		R1-30T	石錐未成品?。黒曜石
23	05谷原前R1	縄文	石器	加工剥片		R1-表探	石錐未成品?。黒曜石
24	05谷原前R1	縄文	石器	磨製石斧		R1-28T	定角式。刃部再生を繰り返して短く、やや歪に変形か。刃部ハマグリ刃状に研磨後伐採痕付く。角や基部に敲打と砥面あり。仕上げ砥に転用
25	05谷原前R1	縄文	石器	磨石類		R1-5T	端部とか所に敲打跡
26	05谷原前R1	縄文	石器	磨石類		R1-27T	分厚い精円・石錐状薄小片。
27	05谷原前R1	縄文	石器	磨石類		R1-27Tワフ	側縫磨・端部敲打
28	05谷原前R1	縄文	石器	磨石類		R1-27T	分厚い精円微小片。周縫磨or敲打
29	05谷原前R1	縄文	石器	磨石類		R1-28T	やや不整な精円微。平面磨、平面中央敲打
30	05谷原前R1	縄文	石器	礫		R1-27T	破碎焼け礫。焼け礫→敲打か?
31	05谷原前R1	縄文	石器	礫		R1-32T	全面破面の焼け礫→磨か?
32	05谷原前R1	縄文	石器	礫		R1-	破碎礫
33	05谷原前R1	縄文	石器	礫		R1-表探	チャート小角礫
34	05谷原前R1	縄文	土製品	土器片錐	加曾利E	R1-31T	50.1×44.6, 33.4g. 加曾利E I
35	05谷原前R1	縄文	土製品	土器片錐	加曾利E	R1-27T	59.7×45.7, 37.7g. 加曾利E II
36	05谷原前R1	縄文	土製品	土器片錐	加曾利E	R1-27T	51.2×35.7, 24.9g. 加曾利E 前半
37	05谷原前R1	縄文	炭化物	炭付着土器	加曾利E	R1-31T	加曾利E 前半の深鉢底部近く。 内面に炭化物付着
38	06種ヶ谷津R1	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R1-50T	加曾利E I 新～II. 連弧文系。波状沈線、RL
39	07種ヶ谷津R2	縄文	土器	縄文土器	加曾利E	R2-10T	加曾利E II 新。隆蒂区画。RL
40	07種ヶ谷津R2	古代	土器	土師器	高坏	R2-42T往居	高杯底～脚部。壺が屈曲して開く。赤彩。古墳時代中期。
41	07種ヶ谷津R2	古代	土器	須恵器	壺	R2-61T	内面一部。被熱により多孔質に変質
42	08居寒台	古代	土器	土師器	壺	R2-3T	口唇外側肥厚、頭部丸く膨らむ。口縫外面ナデ、内面ハケメーナデ。9世紀前半
43	09番後・生実	古代	土器	土師器	杯	R2-1Tワフ	丸底の分厚い底。外側ケズリ→口縫→内面粗いナデ。7世紀末か

写 真 図 版

図版 1



1 観音塚遺跡 調査前（南から）



2 観音塚遺跡 24トレンチ（南東から）



3 観音塚遺跡 25トレンチ（南から）



4 観音塚遺跡 26トレンチ（南から）



5 根崎遺跡 調査前（西から）



6 根崎遺跡 7トレンチ（東から）



7 根崎遺跡 Bトレンチ（東から）



8 根崎遺跡 14トレンチ（東から）

図版2



1 生実城跡 調査前（北から）



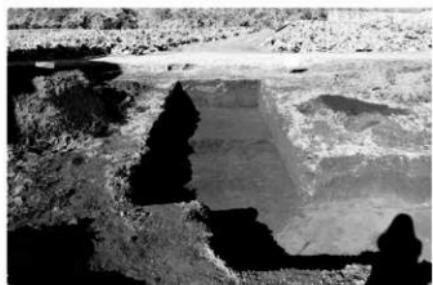
2 生実城跡 4トレンチ（南から）



3 生実城跡 4トレンチ（北から）



4 御林遺跡 調査前（南東から）



5 御林遺跡 5・8トレンチ（南東から）



6 御林遺跡 5・8トレンチ（東から）



7 谷原前遺跡 調査前（南西から）



8 谷原前遺跡 18トレンチ（南西から）

図版 3



1 谷原前遺跡 30トレンチ（北西から）



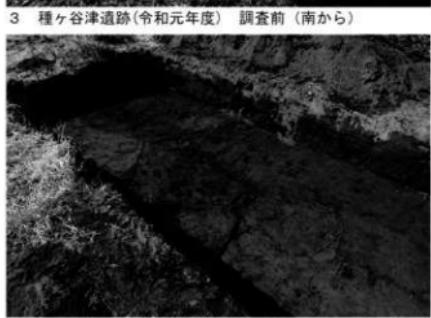
2 谷原前遺跡 31トレンチ 住居床面（南西から）



3 種ヶ谷津遺跡(令和元年度) 調査前（南から）



4 種ヶ谷津遺跡(令和元年度) 11トレンチ（北から）



5 種ヶ谷津遺跡(令和元年度) 32・42トレンチ（南西から）



6 種ヶ谷津遺跡(令和元年度) 47トレンチ（南東から）



7 種ヶ谷津遺跡(令和2年度) 調査前（南東から）



8 種ヶ谷津遺跡(令和2年度) 32トレンチ（東から）

図版 4



1 種ヶ谷津遺跡(令和2年度) 36トレンチ(北東から)



2 種ヶ谷津遺跡(令和2年度) 42トレンチ(東から)



3 居寒台遺跡 調査前(南から)



4 居寒台遺跡 1トレンチ(南から)



5 居寒台遺跡 3トレンチ(北西から)



6 居寒台遺跡 5トレンチ(西から)



7 番后台遺跡・生実城跡 調査前(南東から)



8 番后台遺跡・生実城跡 1トレンチ(南東から)

図版 5



1 番后台遺跡・生実城跡 5 トレンチ（南東から）



2 番后台遺跡・生実城跡 6 トレンチ（南西から）



3 谷原前遺跡 出土遺物(21)



4 種ヶ谷津遺跡 出土遺物(40)

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさ（しないいせき）ほうこくしょ							
書名	埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書							
副書名	一令和2年度一							
巻次								
シリーズ名	市内遺跡報告書							
シリーズ番号	第33冊目							
編著者名	井出祥子							
編集機関	千葉市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL. 043-266-5433							
発行年月日	2021年3月26日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)				
観音塚遺跡	中央区千葉寺町 709番1の一部	12101	中央区 -55	35° 35' 27"	140° 8' 26"	2019年10月21日～ 2019年11月1日 (確認調査)	153.5/ 1,354.91m ²	宅地造成
根崎遺跡	若葉区原町922番3	12104	若葉区 -37	35° 38' 8"	140° 8' 35"	2019年11月8日～ 2019年11月15日 (確認調査)	105/ 1,066.69m ²	集合住宅 個人住宅
生実城跡	中央区生実町1548番 1、同番2の各一部	12101	中央区 -123	35° 33' 55"	140° 8' 55"	2019年11月25日～ 2019年11月29日 (確認調査)	45/ 400m ²	物販店舗建設
御林遺跡	花見川区畠町 1432番2、同番3	12102	花見川区 -92	35° 39' 50"	140° 4' 37"	2019年12月3日～ 2019年12月6日 (確認調査)	55/ 475m ²	個人住宅
谷原前遺跡	若葉区高根町 940番、941番	12104	若葉区 -391	35° 35' 46"	140° 13' 11"	2020年2月7日～ 2020年2月25日 (確認調査)	174.5/ 1,814m ²	太陽光発電施設設置
種ヶ谷津遺跡	中央区生実町 2548番11、2689番1	12101	中央区 -130	35° 33' 56"	140° 9' 39"	2020年2月27日～ 2020年3月25日 (確認調査)	532/ 4,239m ²	第二グラウンド 用地整備
種ヶ谷津遺跡	中央区生実町2579番 1、2580番1の各一部	12101	中央区 -130	35° 33' 57"	140° 9' 36"	2020年6月8日～ 2020年7月7日 (確認調査)	356/ 3,539m ²	第二グラウンド 用地整備
居寒台遺跡	花見川区浪花町 977番22	12102	花見川区 -130	35° 39' 33"	140° 4' 5"	2020年7月27日～ 2020年8月3日 (確認調査)	26/ 242m ²	宅地造成
番後台遺跡	中央区生実町 1539番1、同番2	12101	中央区 -113 -123	35° 33' 58"	140° 9' 0"	2020年8月3日～ 2020年8月11日 (確認調査)	55/ 523.53m ²	集合住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
観音塚遺跡	包蔵地 集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡 溝状遺構 1軒 1条	土師器、須恵器	古代の大規模集落の北限を確認		
根崎遺跡	包蔵地 集落跡	縄文		縄文土器			
		古墳・奈良・平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 7軒 1棟 2基	土師器、須恵器			
生実城跡	城館跡 集落跡	中世	地下式坑	1基	土師器、須恵器、陶磁器		
御林遺跡	包蔵地	縄文		縄文土器			
		奈良・平安	竪穴住居跡	1軒	土師器、須恵器		
谷原前遺跡	包蔵地	縄文	竪穴住居跡 土坑 4軒 3基	縄文土器、石器、土製品	調査の少ない地域で縄文時代の集落を確認		
種ヶ谷津遺跡 (令和元年度)	包蔵地 集落跡	縄文		縄文土器	古代集落に隣接する古墳群		
		古墳	円墳 土坑 1基 2基	土師器、須恵器			
		近世	溝状遺構	1条			
種ヶ谷津遺跡 (令和2年度)	包蔵地 集落跡	縄文		縄文土器	墓域と考えられる場所で竪穴住居跡を確認		
		古墳	竪穴住居跡 円墳 土坑 1軒 1基 1基	土師器、須恵器			
居寒台遺跡	包蔵地 集落跡	古墳・奈良・平安	竪穴住居跡 土坑 2軒 2基	土師器、須恵器			
番後台遺跡 生実城跡	包蔵地 城館跡 集落跡	古墳	竪穴住居跡	3軒			
		中・近世	溝状遺構	1条			
要約		観音塚遺跡	古代の大規模集落の一部を調査。今回の調査区南端が集落の北限と考えられる。 影響範囲のみ本調査実施。本調査報告書は既に刊行済み。				
		根崎遺跡	古代の竪穴住居跡7軒と掘立柱建物跡1棟を確認。個人住宅部分は市教委で本調査実施。令和3年度市内遺跡報告書に所収予定。集合住宅部分は千葉市教育振興財団で実施。令和3年3月に報告書刊行予定。				
		生実城跡	中世の地下式坑1基を検出。残存状況は良くないが、試掘調査と合わせて遺構の広がりを確認できた。				
		御林遺跡	平成10年度の本調査に続き、古代の竪穴住居跡1軒を検出。周辺に集落が広がっていると推定される。				
		谷原前遺跡	初の調査で竪穴住居跡4軒を検出。縄文時代の集落が存在することが明らかになった。 加曾利E式を中心とした縄文土器が大量に出土。				
		種ヶ谷津遺跡	墓域と考えられている場所で円墳2基と竪穴住居跡1軒などを検出。				
		居寒台遺跡	令和3年度に影響範囲のみ本調査予定。				
		古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡2軒と土坑2基を確認。					
		過去の調査成果を追認する結果となった。					
		番後台遺跡・生実城跡	古代の竪穴住居跡3軒と中・近世の溝状遺構1条を検出。 過去の調査と合わせ、当該期の集落の広がりを確認した。				

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－令和2年度－

発行日 令和3年3月26日

発行 千葉市教育委員会
〒260-8730
千葉市中央区問屋町1番35号
千葉ポートサイドタワー11・12階
TEL 043-245-5962
(生涯学習部文化財課)

印刷 株式会社プリントクス
〒260-0813
千葉市中央区生実町2498番8
TEL 043-268-2667